

先生のための ヒント集

「総合的な学習の時間」を実りあるものにするために

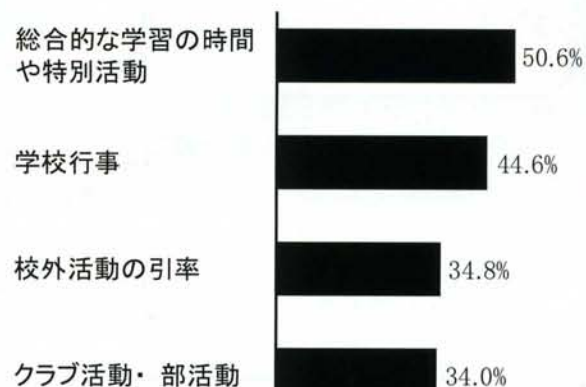
ヒント その1

「地域人材を積極的に活用しよう！」

東京都教育委員会が実施した調査では、都民の5割以上の方が総合的な学習の時間や特別活動なら、自分たちの持っている知識や技術を活かすことができると答えています。

総合的な学習の時間のゲスト・ティーチャーやクラブ活動の指導者、そして学校支援ボランティアなどとして、地域の方々の力を借りてみてはいかがでしょうか？

都民が可能な学校教育への支援



「学校と地域の連携・協働に関する調査報告書」
東京都教育委員会 平成14年3月

ヒント その2 学校を支援してくれる「コーディネーター」を見つけよう！

いくら先生方が地域の人材を活用して授業を進めたいと考えていても、忙しい毎日の中で、人材を見つけ出すことはとても難しいことです。そのためには学校の求めに応じ、学校の教育活動を支援してくれる人材を探し、紹介してくれる「コーディネーター」が必要です。

このコーディネート役を地域の方に担ってもらおうというのが、都教委が提唱する「地域教育サポート・ネット」事業です。モデル事業を実施している区市では、「学校教育コーディネーター」（杉並区）制度を導入したり、地域のNPOが総合的な学習の時間のコーディネート役を担う（板橋区）など様々な工夫をしています。また、学校が自ら「学校支援ボランティア養成講座」を企画実施し、その参加者の中からコーディネーターを発掘しよう（小平市）という試みも行われています。

ヒント その3 先生たちの授業のねらいをきちんと伝えよう！

「地域の人たちを呼んだのはいいが、自分たちの主張ばかり言うだけで、授業にならなかったよ。」という声も少なくありません。地域の人々は子どもたちに伝えたい様々な思いをもって学校にやってきます。

地域人材を活用する際に必要なことは、学校側が授業のねらいや地域人材に望むことをきちんと伝えることです。また、学校の教育方針や教育課程について説明しておくことも必要です。そうして事前に理解を得ておけば、地域人材の活用もスムーズに進むことでしょう。